

史談

2009 (H21) 6・15

■ 二十一年度総会、開かれる

さる5月29日、平成21年度の史談会総会が町の中央公民館で開かれました。20年度決算、21年度事業計画案、予算案ともに承認され、事業としては9月の文化財めぐり、地名についての講演会、会員による研究発表会、会報と会誌『史談』の発行などを行うことになりました。

総会のあとで佐藤與七氏の「高玉のお大師様」と題する講話がありました。この件は町史編纂のころから謎めいた話だっただけに、今回の発表でかなりの部分が明らかになりました。同時に地道な調査の大切さを痛感させられました。

また、退会される方もおられる一方で、4人の方が新しく入会され、活動を共にすることになりました。今後、会報の中で紹介していく予定です。

■ 会誌『史談』25号を発行

昨年末から準備してきた『史談』25号がようやく完成しました。原稿の集約に手間取り、なかなか作業が進まず苦労しましたが、中身はまずまずというところでしょうか。資金面では2年分を使ってしまうようなやり方で、この点、反省と工夫が必要です。今後については締切りを限定せず、随時、書き手を募ることにしたいと考えています。

(この「会報」もその方向で、執筆希望者に優先的に紙面を提供いたしますので、ぜひご利用ください。連絡は丸川まで。メールでも可能です。)

■ 会報の送付について

現在、この会報は各会員あてに郵送されていますが、今後、経費の節減を考慮して、地区内の近くの会員に手渡ししていただく方法を考えています。役員・事務局で原案を作り、事前に連絡して了解を得るようにしますが、会員各位のご協力をよろしくお願いいたします。

■ 諏訪堰を歩く 2 守谷英一

3 国道287号線に沿って

最上川から取水された水は、長井橋のたもとから地表にでて、国道287号線に沿って、道路の西側を流れ始める。通勤の車の窓からも見えるので、私たちにとって、もっとも親しみ深い諏訪堰の姿である。



しばらくそのまま流れ、森の集落が始まる頃、諏訪堰は国道を横断して、森・上の集落を貫く旧道に沿って流れる。

このあたりでは、堰の水は洗い物などに使われているようだ。あちらこちらに写真のような洗い場が設けられている。



4 東西置賜通路碑

森・上の集落を歩いていると、おもしろい石碑を見つけた。明治44(1911)年に建てられた「東西置賜通路記念碑」と彫られた碑である。この碑が建てられている場所は、長井市大石に続く道が東側に延び、南北には長井から白鷹町へ向



かう道路が延びている三叉路である。大石を含む長井市伊佐沢は、かつては東置賜郡伊佐沢村であった。それが長井市になったのは昭和29(1954)年11月15日の長井市政施行からである。大石は白鷹町杉沢から長井市伊佐沢を通り、川西町大塚を抜け、米沢へ通じる街道、かつて「米沢中街道」といわれた道路が通っている。その東山の稜線伝いに南北を結ぶ街道と、最上川に沿って南北を結ぶ街道が、森と大石を結ぶ道路ができることによって交わった記念碑がこの石碑なのである。

鉄道や自動車を中心とした近代交通網は、多少遠回りでも平地を選んでルートを延ばす。しかし、人馬が中心であった時代の交通網は、多少の上り下りをもものともせず、二点間の最短距離を結ぶことが多い。長井市や白鷹町の東に連なる山(私たちは「東山」と呼んでいるが、出羽山地あるいは出羽丘陵というのが正式な名称のようである)の山中にはそうした道がめぐらされていた。そして、その所々に集落が存在していた。今はもう、その多くは廃村になってしまっている。東山を歩いていると、私たちは、時々思いがけなくそういう廃村に出会う。それらは、時代の流れによって交通路が変化したためなのである。(つづく)

■ 史談会の会費、忘れていませんか。
平成21年度の会費、お忘れの方、早めに事務局までお届けくださるようお願いいたします。

■ ウルシかぶれ 5

余談をひとつ。太宰治の『津軽』という小説の中に、津軽を訪れた太宰が昔の使用人だった女性たちと、近くの野山を散策する場面が出てくる。昼食時になって弁当を広げようとして、太宰は近くにある木がウルシでないかを土地の女性に確かめてもらうのである。この場面を読むと、太宰はウルシにかぶれる体質だったこと、ウルシの木とほかの木を見分けることができなかつたらしいこと、ウルシの木が山野には自生していないことを知らなかつたらしいことなどがわかる。

さて、もうすでにウルシの木も、その仲間であるヌルデの木の芽もふくらみ葉も繁ったが、春先、これらの木の芽を山菜のタラの芽(正確には「カラスサンショ」という)と間違えて取る人がいるのだという。タラの木にはトゲがあるのでわかるはずだし、ヌルデはかぶれたら大変だと思うのだが……。これを食べた事のある人の話では、他の山菜と比べてもたいそう美味なのだとか。ただし食したあとに尻の穴のあたりがかゆくなるのだというのだが、ウソか本当か私はまだ食べたことがないのでわからない。(川)

■ 新入会員紹介

佐藤京一氏。荒砥在住、昭和26年生まれ。45年、荒砥高等学校を卒業し、東京の三共製薬系列薬品卸業に勤務。48年、コンピュータのソフトウェア開発会社に転職。55年、退職して親子4人で荒砥に帰郷、製造・流通・金融・医療などのシステム開発やソフト作成の仕事を行う。平成6年、(財)白鷹町アルカディア財団に勤め、白鷹町の情報システム導入に従事する。13年、パレス松風勤務して支配人を務め、19年に退職する。20年10月 白鷹町議会議員の補欠選挙に立候補して当選し、現在に至る。趣味は釣りとパークゴルフ。史談会への入会は、歴史が好きなことの一点。最近、八乙女が丘愛護会に入会する。

■ この会報への原稿は、随時受け付けています。長さは800字ほど、内容は問いません。お気軽に連絡ください。